

令和 7 年度 地域のみなさまと学ぶ会 第 6 回を 11 月 11 日に開催いたしました。

今回のテーマ

『患者さん・家族の思いをくみ取った、糖尿病治療へのアプローチ』

糖尿病患者さんは、医療者との会話の中で自分の問題意識を高め、何をすればよいかということ自分で決めて行動することが、大事になります。

慢性疾患の患者さんへの関わりとして、「一緒に学ぶ支援」や

「自己効力を高めるアプローチ法」などを学び、グループワークでは事例をもとに交流しながら、患者さんのできている所に視点を置いてディスカッションを行ないました。

参加者の方から「今までの支援が間違っていなかった答え合せができました。」「とても福祉、介護に通じるものがあると感じた。」「良いところを探すことで見方がこんなに変わるとは、びっくりしました。」とのご感想もいただきました。

今年も多くの方に参加していただき、相談し合い、一緒に学ぶことができました。認定看護師一同御礼申し上げます。



©菊川市

I 糖尿病患者にはセルフケア能力を高めるかわり方を

1. 患者教育の変遷: 「指導」から「援助」へ

慢性疾患の患者さんに対して有効的
主体は患者さんである「指導する」ではなく「一緒に学ぶ」の関係
糖尿病という慢性疾患の患者さんへは、セルフケアマネジメント能力を身につけてもらうことが大事



【ステップバイステップでの技術習得、行動変容】

- ① 周りの人に助けてもらいながら少しずつ階段を踏んでいく
まず学習されるべき技術や行動を明確にし、そこに至るステップを細かく分割すること
- ② できた行動に対してほめるなどして、その行動を「強化」していくことが有効な支援方法
- ③ 「強化」はタイミングが大事
 - ・ただちにほめる
 - ・一貫した評価
 - ・技術や行動が定着し継続できるようにしていく



5. ケアリングについて考える

ケアする人が対象者に深い関心を寄せ、真のケアについて考える
「自分自身が良いと感じること」から、
「ケアされる人が良いと感じること」へと
関心の軸を移すこと。



延べ 81 名(院外:68 名、
院内:13 名)の方にご参加
いただきました。

「地域のみなさまと学ぶ会」では、地域の医療・介護を支える多くの方との新たな出会いがあります。この出会いは、体験できない多くの経験を伺う学びの機会になっています。繋がることで得られる信頼は地域の財産です。みなさまのご参加をお待ちしております。